## Hotspot2.0が公衆無線LANの新ビジネスを拓く LTEとWi-Fiのローミングも視野に

スマートフォンの普及と新規格Hotspot2.0の登場を契機に、公衆無線 LANサービスが変わり始めた。数十万規模に広がることが期待されるAP 群は新たなビジネス展開の舞台にもなりそうだ。 文◎藤井宏治(IT通信ジャーナリスト)

人の集まる駅や空港、カフェなど で、ノートPCなどのWi-Fi対応機器 にインターネットアクセスを提供する 公衆無線LANサービス――。ニッ チなビジネスとみられていたこのマ ーケットがにわかに活気づいてき た。これを牽引するのが、昨年来急 速に利用者を増し、2011年度は 1500万台を超える販売が見込まれ るスマートフォンだ。

従来の携帯電話の10~20倍のデ ータをやりとりするスマートフォンの 本格普及に伴って、爆発的なトラフ イック増加への対応は携帯キャリア のまさに喫緊の課題となっている。

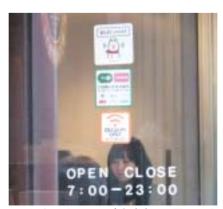
都心では道路上でも複数の公衆無線LANサービ スが利用できる(東京・秋葉原)

その対策の1つとして各社が力を入 れているのが公衆無線LANへの「ト ラフィックオフロード | である。

スマートフォンに搭載されている 無線LAN機能に目を付け、トラフィッ クが集中する地域でアクセスポイン ト(AP)を拡充、より快適な通信が可 能な無線LANにユーザーを誘導す ることで、携帯電話網の混雑を緩和 しようというわけだ。

すでにソフトバンクモバイルと KDDIは今年定額データプランのユ ーザーを対象にスマートフォンで公 衆無線LANが利用できるサービスを 無料で提供している(ソフトバンクは キャンペーン扱い)。両社とも年度内 に10万カ所のAPが利用できる環境 を整える計画を打ち出している。

無線LANへのトラフィックオフロ



ソフトバンクとKDDIは今年度中に10万のAPを 整備する計画

ードに慎重な姿勢を見せていた NTTドコモも、今年4月に携帯電話 ユーザーを対象に月額315円で公衆 無線LANが利用できるサービスを 開始、10月には来年3月までの「キャ ンペーン | としてその無料提供に踏 み切った。現在6800カ所にとどまっ ているAPも2012年度上期をめどに 3万カ所程度に、将来的には10万カ 所程度までに拡充する計画だ。

## オフロードが設備環境を底上げ

こうした携帯キャリアによるAPの 整備が公衆無線LAN事業者を巻き 込む形で進められ、結果として公衆 無線LANサービスの設備環境の底 上げにつながっている。

NTTグループの無線LAN設備の 構築を担っているNTTブロード バンドプラットフォーム(NTT-BP) は、現在全国に1万弱のAPを設置・ 運用しており、NTT東西、ドコモ、 NTTコミュニケーションズがこのう



東京メトロの駅にはNTTドコモが公衆無線LANの APを整備しており、これをソフトバンクも利用する